シリーズ 第31回

伊丹健治郎の尽力

―明治の道路改修余話―

江戸時代、津山と倉吉を結ぶ街道「倉吉往来」は、香々美―百谷―養野―奥津―上齋原から、人形峠を越えるルートが官道として整備されていましたが、その他にも田代峠越え、大谷峠越えなどの脇道があり、それらの道も頻繁に使用されていました。

明治時代になり、交通や物流が活発になると津山―倉吉間の道をさらに整備する必要が出てきました。そこで検討されたルートは、

①津山―芳野―香々美南―香々美北―越畑―上齋原から倉吉へ至る。

②吉井川を北上し、羽出から田代峠を越えて倉吉へ至る。

③津山―芳野―小田―久田―泉―奥津―上齋原から人形峠を越えて倉吉へ至る。

この三つの案が浮上し、明治十八年（一八八五）頃から、村の有力者達が調査や検討を重ね、自分たちの村を通過する道が採用されるため、有利になるよう働きかけていました。

こうした状況の中、羽出村の豪農・伊丹健治郎は、羽出を通過して田代峠を越えるルートを有利にすべく、私財を投じて道路改修に着手しました。

田代峠は、山陰へ行くには人形峠を越える道よりも距離的に近かったこともあり、官道ではなかったものの、江戸時代からよく使われていた道でもありました。しかし、道が狭く険しかったため、健治郎は羽出から田代峠を越えて、鳥取県側の現在の三朝町田代まで自費で整備し、さらに協力した村民には酒肴をもって労をねぎらい、明治二十一年の道路改修完成のあかつきには、田代に杉の苗木を数千本植樹したといいます。

しかし、津山―倉吉ルートは、徒歩の時代ならばともかく、馬車や人力車などの往来には人形峠も田代峠も傾斜が急であるため適していないということで、結局どちらも採用されず、人形峠の東を迂回する新たなルートが計画され、明治三十二年（一八九九）頃に完成、津山までの道も、通過する村々の連携と努力により着々と整備が進められ、明治三十八年（一九〇五）津山倉吉線はついに県道に昇格しました。そして、県道にはならなかったものの、田代越えのルートも明治四十四年（一九一一）に再び改修されましたが、通行する者も徐々に減少していきました。

健治郎の望みはかなわなかったものの、田代越えの道は、作州から鳥取連隊へ入営する際などによく利用されたといい、改修記念に植樹された杉の木は、大正八年（一九一九）に田代に電気が導入された際に電柱として利用されたそうです。その努力は決して無駄ではありませんでした。

地元のために私財を投げ打ってまで尽くした健治郎の功績は、大いにたたえられ、村の誇りとして後々まで語り伝えられるよう、立岩の前と羽出神社の南、三朝町田代の三箇所に健治郎の顕彰碑が建てられています。

健治郎の墓（羽出）

伊丹健治郎の顕彰碑（羽出）

今も残る田代越えの旧道（羽出）

参考資料：『奥津町史』通史編・『作州のみち』2（下）

生涯学習課　日下
電話（0868）54-7733

2012年12月号　第94号　毎月1日発行
〒708-0392 岡山県苫田郡鏡野町竹田660 鏡野町くらし安全課 TEL0868-54-2780
【鏡野町のホームページアドレス】http://www.town.kagamino.lg.jp/